



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	井本 亮		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:M
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>本学が理念として掲げる「問題解決を基盤とした教育」の入り口科目である。この授業の目標は大きく2つある。 (1) スタートアップセミナーで修得したアカデミックスキルのさらなるトレーニング・ブラッシュアップを図り、形式の整った「リサーチ・ペーパー」を執筆する。 (2) (1)のための実践的な課題として、この科目では「グローバル化する日本と「日本語社会」」を共通テーマとして、各自が具体的な・現実的な課題を発見し、調査・分析・報告し、成果を共有する。</p> <p>「日本語社会」ということばはあまり聞き慣れないことばです。ここでは、「私たちの日本社会は当然のように日本語という「インフラ」を使っている」、「では、その社会のインフラとしての「日本語」は、日本に住むすべての人にとって使いやすい、有用なものになっているのだろうか」というような見方で、現実の日本社会や日本社会に参加する人たちのコミュニケーションを考えてみたい、そういう発想で使います。</p> <p>日本で生まれ育ったいわゆる「日本人」、大人、子ども、お年寄り、東京の人、地方の人、外国出身で日本で暮らしている人、異なる文化、異なることば、日本社会に参加しているすべての人のことばとしての日本語をさまざまな視点から考えてもらうことがこの授業のひとつの目的です。</p>		
単位認定基準	1. 大学の学修に必要なアカデミックスキルを十分身に付けており、アカデミックリテラシーに則った様式のリサーチ・ペーパーを執筆することができる。 2. 「グローバル化する「日本語社会」というテーマについて、各自が現実的・実践的な課題を発見し、その課題に対する自分なりの理解・提言を示すことができる。 3. グループワークや能動学修など授業内のタスクを通して主体的に他者と協働する姿勢を示し、それを実践することができる。		
授業計画	第1回) ガイダンス: この授業の基本方針とテーマについて 第2回) テーマ学習: 日本語社会のグローバリゼーション 第3回) テーマ学習: 日本語社会のコミュニケーション 第4回) グループワーク準備: 論点整理と調査計画 (ブレインストーミング) 第5回) グループワーク: 論点整理と基礎調査 (調査の目的・方法) 第6回) グループワーク: 論点整理と基礎調査 (調査のまとめかた) 第7回) フィールドワーク: 課題を発見する (理論と実践) 第8回) 各グループの課題について: 調査報告 第9回) 各グループの課題について: ピアレビューとディスカッション 第10回) 各グループの課題について: 適切な伝達と意見表明 第11回) 各グループの課題について: 報告書作成への追加の議論と調査 第12回) リサーチ・ペーパー作成: パラグラフライティング 第13回) リサーチ・ペーパー作成: レトリカルモード 第14回) リサーチ・ペーパー作成: レファレンス 第15回) 各グループでのリサーチペーパーピアレビュー		

	受講生各自の理解度・グループ活動における調査・発表準備の進捗・報告へのフィードバックの質を重視するため、各回の進捗と内容には変更が生じる場合がある。
教材・教科書	次の教材を購入して使用する予定：『大学生のための表現力トレーニング:あしか』(宇野聖子・藤浦五月) 主要参考文献：『やさしい日本語 多文化共生社会へ』(庵功雄)、『やさしい日本語 と多文化共生』(庵功雄ほか編)、『Good Writingへのパスポート』(田中真理・阿部新)、『伝わるデザインの基本・増補改訂版』(高橋佑麿・片山なつ)
参考図書	シラバス掲載図書(参考URL参照)
参考URL	https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?lang=0&rmtype=1&reqCode=list&dptidpl=1&rmkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rmmn=&codeno=7
授業以外の学習	リテラシーB科目「多文化理解」(後期)の中で関連する講義があるので並行して受講すること。 授業期間中は社会の現実的課題、特に自分が選択したテーマについて、社会から課題を見つけ授業で共有し、それを再び自分自身の問題探究に生かすことを習慣にすること。 授業時間は基本的に反転学習の形式を取るの、発表者だけでなく授業の参加者全員があらかじめ次回の内容について事前に自己学習しておく必要がある。
成績評価の方法	単位認定基準について 授業内でのパフォーマンスおよび事前学習を含むタスクへの取り組み方、提出課題と最終成果物の評価項目(アカデミックリテラシーの習得と内容の両面)の達成度、グループワークにおける協働力、を総合的に判断し、以下の目安にしたがって成績評価を行う。
成績評価の基準	S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90~100点) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80~89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70~79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60~69点) F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(~59点)
オフィスアワー	金曜日10:30~12:00。ただし、基本的にはまずアポイントメントをとること。
授業改善・工夫	グループワークのためのオンラインサービスを活用し、資料配布・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。
留意点・注意事項	次の2点については重要なことなので、あらかじめ了解しておいてください。 (1)現在の日本は実質的にグローバル化社会であることを選択済みです。したがって、「日本人」だけが暮らす社会にする」「この国から外国人を排除する」という考え方は論理的には可能ですが、「日本が抱える現代的課題」の解決方法としてはこの授業では採用しません。限られた時間のなかで、より現実的・建設的な方向で問題探究に向かう態度を重視します。 (2)授業内外の活動をサポートするオンラインサービスを利用するので、スマートフォン・タブレット・ラップトップPCをこの授業のために使用すること。そのための充電など機器の準備をしておくこと(授業中は担当教員の指示に従って使用すること)。
教員の実務経験の有無	

